

26 春闘 いよいよスタート 賃金上昇を実感できる回答を目指す

2026
春闘
開始

大変革についていくのではなく 日本を牽引する企業になるべき

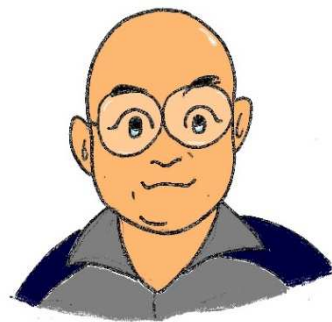
新年明けましておめでとうございます。今年も宜しくお願い致します。
2026 年の日本経済は、政府の経済対策や賃上げ効果で「緩やかな回復」が見込まれています。一方で、大企業と中小企業の格差や物価高の常態化、海外情勢など不透明要因も依然として残っています。こうした中、実質 GDP 成長率は潜在成長率を上回る+0.8%~1.3%程度、物価上昇は鈍化し、実質賃金がプラス転換する予測も示されています。

今の日本はもはやかつてのような経済大国とは言えず、世界の中で相対的な地位を低下させています。賃金水準や労働環境の面でも国際的な差は広がり、国内においても将来への不安が人材の流動化や海外流出につながっています。これは一企業の問題ではなく、日本社会全体が直面している課題です。こうした時代だからこそ、企業には「変化に対応する」だけでなく、新しい価値を創り、社会を牽引する存在となることが求められています。

そんな中で JAL は変化についていくのではなく、牽引するくらいの意気込みを持って欲しいものです。

日本航空ユニオンとしては JAL グループで働く皆様と一緒に、より良い職場環境と豊かな生活の実現に向け、全力で取り組みたいと考えております。2026 年も昨年同様、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

日本航空ユニオン 中央執行委員長



佐藤 健司

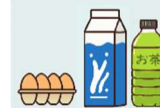
WING

日本航空ユニオン宣伝ニュース
No 556 (17-05)
2026年 1月 16日

Tel: 03-5756-8690 URL <http://www.jlu.co.jp> e-mail honbu@jlu.co.jp

賃上げの“継続”から“水準”へ

最近の春闘の取り組みによりベースアップは累計で約3万円になりましたが、食品・日用品の価格上昇はそれを上回る勢いで続いています。



品目	2022年	2023年	2024年	2025～現在
たまご (10個)	約210円	約300円超	約270～290円	約310～330円
牛乳 (1L)	約230円	約250円	約260円	約280円前後
ペットボトル飲料 (500ml)	約140円	約160円	約180円	約200円～
ベースアップ	なし	7,000円	12,000円	10,000円

委員長あいさつで示された通り、JAL には「変化についていく企業」ではなく、日本を牽引する企業としての役割を期待しています。そのためには、社員が安心して働き、生活できる賃金水準が不可欠です。

上の表のとおり、たまごや牛乳、飲料など身近な生活必需品の価格は大きく上昇しており、賃上げの実感は十分とは言えません。

物価高が続く中、賃上げの継続は一定程度進められています。会社も賃上げを続ける姿勢を示していますが、その水準は標準的な範囲にとどまっています。繁忙の中、日々の安全運航で公共交通を担い、新規事業や受託業務を通じて会社の発展に貢献している社員に見合った賃上げとするため、26 春闘で大幅賃上げを求めます。

整備のポロシャツ、現場の声で決めよう

クリスマスの12月25日、「整備用ポロシャツのトライアル導入および個人貸与開始について」の業連が発信されました。年末の団交で示された「年3回の節目に回答するだけでなく、出来るものから順次やっていく」という考え方に沿った対応で、私たちがこれまで訴えてきた声に応えた動きと受け止められます。JGS各労組と連帯して提出しているJグループ労連統一要求でも「貸与品について、使用する現場の声を尊重し、より機能的な仕様に改善すること」を求めています。

25 夏闘でのやり取り(2025.06.17)

組合 夏なのでカバーオールが暑いという声が出ている。JGSではポロシャツが導入されているが、整備で導入していない理由は何か？

整備 現時点では安全上の問題で導入していない。上下セパレートについても懸念がある。ただ、年々暑くなる中で熱中症対策に取り組んでおり、つなぎのままでいくのかは検討すべき課題だと考えている。

こうして考えた結果が、今回のトライアルにつながったということです。夏の暑さ対策としてJALグループでは、JGSで2020年からポロシャツが導入されましたが、当初は、色や素材、ポケット配置などについて不満の声も少なくありませんでした。その後、2024年にはANAのグラハンで機能性・デザイン性を両立したモデルが採用されるなど、現場作業に適した改良が進んでいます。

今回のトライアルは、そうした課題や他社事例の改善点を踏まえ、JALECとして「より良い一着」を現場とともにつくるための段階です。正式採用後に不満が出ても、仕様変更は簡単ではありません。できるだけ多くの人が試着し、フィードバックを届けましょう。



食費だけで終わらないパーディウムに

昨年12月、ニューヨークのJFK空港にてJALのA350-1000に他社機の右主翼が接触しました。損傷個所の整備には相当な期間を要します。主な作業はエアバスの修理チームが行いますが、JALECからも出張者を送り、損傷周り以外の作業や検査業務を行います。



ニューヨークでの食事の負担はどのくらい？

現行規定では、ニューヨークのパーディウムは\$99.9とされていますが、現地の物価や円安の影響を踏まえると割高感はありません。実際に客室乗務員だけでなく、機長であっても食事を持参する人もいます。

朝食	パン+牛乳	8~12ドル
昼食	マクドナルドのセット	10~13ドル
夕食	デリヤカジュアル外食	25~35ドル
コーヒー	カフェ1杯	5~8ドル
合計		48~68ドル

普段から質素な生活をしている整備士が、1ヵ月単位でニューヨークへ出張に行くことを考えると、食事にかかる費用だけを見ても、心理的負担は小さくありません。パーディウムは、単に食事代を精算するためのものではなく、出張によって生じる生活上の制約や、普段の生活から切り離されることへの負担を含めて補填する制度です。

現地の物価上昇が続くなか、食費だけで大半が消えてしまう現行水準では、その本来の役割を果たしているとは言えません。国際線パーディウムは毎年4月に更新されますが、進んで出張に行きたいと思える水準にしていくことが必要でしょう。

国内出張パーディウムは **¥4600**

24春闘で600円上がったものの、国内では外食の値上げやコンビニで買う商品の価格上昇も続いています。このパーディウムは、世間水準で見て妥当と言えるのでしょうか？